

第5回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（教育環境整備部会）概要について

- 1 日 時 平成31年3月12日（火） 19時 ～ 21時
- 2 会 場 江山人権福祉センター
- 3 出席者 【委員】教育環境整備部会員8名、江山の宝応援部会員1名
【教育委員会事務局（教育総務課）】職員2名

4 報 告

1月～2月に2校の義務教育学校（津市立みさとの丘学園、亀岡市立亀岡川東学園）を視察し、参加した部会員から報告を受けた。特に、亀岡市立亀岡川東学園の絆空間のように全校児童生徒が集え、地域の方も集え、図書館機能も兼ねたような空間があった方がいいという意見があった。

5 議 事

（1）校名案の選考について

応募のあった240件の中から、あらかじめ部会員が5点を選んで持ち寄り、その集計結果をもとに協議を行い、校名案として9点に絞った。→（議事資料参照）

【委員意見】

- ・誰もが正しく読みやすい校名がいいのではないか。
- ・それぞれの地域の名前を残した方がいいのではないか。
- ・市内の他の学校との区別が付きやすい校名がいいのではないか。

（2）校名案の最終選考の方法について

校名案の最終選考の方法について案をもとに協議し、別添のとおり準備委員会に諮ることとした。→（議事資料参照）

（3）その他

開校に向けて、次のような意見があった。

【委員意見】

- ・まだまだ地域に義務教育学校開校について浸透していないように感じる。平成32年4月に開校というのは、準備が足りないと思う。実際に、みさとの丘学園のように開校を1年遅らせた例もある。施設整備についても、児童クラブの課題等があるので、場合によっては一度決定した計画を変えていけない。
- ・美穂地区の区長会から、経過報告をしてほしいという要望がある。
- ・地域の多くの方に周知することは大事なことだが、あらゆる組織や団体ごとに説明していくのはなかなか難しいと思う。年末に、地区単位で報告会を実施したが、今後、準備委員会で何らかの方針なりが決定した段階の度に、報告会の持ち方を検討してどうか。

- ・一番大事なものは、将来の子どもたちのことを考えていくこと。これから何十年先のことも考えて子どもたちが学べる環境を作りあげていかないといけない。
- ・平成32年4月に開校というのは、延ばせないと思う。ただし、施設については、十分検討して、例え仮設校舎で学習する期間が長くなっても、良いものを作っていく必要がある。
- ・神戸小の児童数が少ないということは切実であるので、いち早くこうした課題を解消してほしいと考えているので、平成32年には開校してほしい。今の校舎を使う分離型で開校し、施設が整ってから一体型にした方がいいではないかという声も聞いている。また、平成32年4月の開校までも児童の交流の機会を増やすなど工夫してほしい。

<事務局説明>

- ・神戸小学校の小規模化が顕著である現状から、一刻も早く課題に対応する必要があるという議論が教育委員会でなされ、できるだけすみやかに義務教育学校を設置すべきということで、平成32年4月開校が昨年6月に決定したところである。
- ・また、小学校と中学校を一体型の校舎とすることについては、子どもの学習面において高い効果が期待できることはもとより、学校運営の面でも、より効率的に一貫教育を行うことができ、教職員の負担軽減にもつながるということを考慮された。
- ・施設整備については、できるだけ教室数や広さを充実させたいという考えは、おそらく誰もが望むところであると思う。ただ、市としての予算の作成段階や、議会から認めていただくにあたり、鳥取市全体の学校施設のバランスは考えていかなければならない。例えば、理科室を2つ設置したいというときに、同規模の他校では1つであった場合には、2つにするそれなりの根拠を示していく必要がある。そのようなことを踏まえ、江山地区の義務教育学校で具体的にこういった教育をしたい、力を入れたいので、こういった教室・施設が必要だという議論をお願いしたい。そうすれば、事務局としても、実現していくために根拠を持って予算要求にあたっていくことができる。